

# 北海道地域福祉学会ニュース NO.18

2003年6月16日発行 / 編集 北海道地域福祉学会事務局

2003年度北海道地域福祉学会活動テーマ

## これからの地域福祉サービスを考える

### 2003年度事業計画決まる

5月26日(月)、道立社会福祉総合センター(かでの2・7)において、第1回理事会が開催されました。4月21日(月)に行われた研究活動委員会で具体化された2003年度の学会活動テーマ、定例研究会案を基に今年度計画について、話し合わせ、今年度の学会活動テーマを『これからの地域福祉サービスを考える』に設定しました。

学会活動10年目を迎え、更に充実した活動にしていきたいと思えます。各事業の詳細につきましては今後の学会ニュースや開催要綱の送付を通して会員の皆様へご案内させていただきますので、よろしくお願いたします。

### 年間事業計画

6月16日(月)	学会ニュースNO.18発行
7月13日(日)	研究大会・総会(P2参照)
7月31日(木)	学会ニュースNO.19発行
8月26日(火)	第2回定例研究会開催
9月4~6日	日本地域福祉研究所主催 第9回地域福祉実践セミナー
10月27日(月)	北海道社会福祉協議会主催 全道地域福祉推進セミナー(仮称)
12月19日(金)	学会ニュースNO.20発行
12月(調整中)	第3回定例研究会開催
2月(調整中)	第4回定例研究会開催
3月31日(水)	研究誌発行

### 研究大会・総会開催

2003年度北海道地域福祉学会第10回研究大会を7月13日(日)北星学園大学で行います。

2ページに詳細がありますので、そちらをご参照の上、別紙申込書でお申し込み下さい。多くの方の参加をお待ちしております。

### 研究大会・研究発表者募集!!

2003年度研究大会の開催にあたり、研究発表者を募集いたします。研究発表を希望される方は以下の事項にご留意頂き、6月27日(金)までに別紙様式より事務局宛お申し込み下さい。

研究発表は16時30分頃から行う予定で、発表される方の順序等は事務局にて決めさせていただきますのでご了承ください。

#### <募集要件>

- 1) 研究発表は会員のみさせていただきます。(共同研究者は非会員可/会員募集随時受付)
- 2) 発表時間は質疑を含めて1人20~30分以内(発表者数により変更あり)
- 3) 発表申し込み者数によって発表いただけない場合があります。

# 北海道地域福祉学会第 10 回研究大会のお知らせ

## 1. 趣 旨

社会福祉法第 4 条に「地域住民、社会福祉を目的とする事業を営む者及び社会福祉に関する活動を行うものは相互に協力し、福祉サービスを必要とする地域住民が地域社会を構成する一員として日常生活を営み、社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加する機会が与えられるように、地域福祉の推進に努めなければならない」と規定されています。

地域福祉を推進するために、近年、柔軟なサービスを提供できる小規模の地域福祉サービスが期待されています。

今回の研究大会では、基調講演から、これからの地域福祉サービスについて学び、さまざまな立場から 4 名のシンポジストを迎え、今後の施設サービスのあり方を問い直し、誰もが住みなれた地域で、その人らしい生活を送ることのできる地域福祉サービスの展開を模索します。

2. 主 催 北海道地域福祉学会

3. と き 平成 15 年 7 月 13 日(日) 12 時 50 分～18 時 00 分(受付 12 時～)

4. と ころ 北星学園大学 A 館  
札幌市厚別区大谷地西 2 丁目 3 - 1  
(交通手段) 地下鉄東西線大谷地駅下車、徒歩 5 分

## 5. 内 容

1) 開会あいさつ(12:50～13:00)

北海道地域福祉学会 会長 杉岡 直人(北星学園大学教授)

2) 基調講演(13:00～14:00)

「これからの地域福祉サービス～宅老所事業の新たな展開と課題」

講 師 東北福祉大学教授 高橋 誠一氏

3) シンポジウム(14:00～16:30)

テーマ「地域福祉時代の小規模サービスの展開を考える」

シンポジスト ・特別養護老人ホーム支援型グループホームの展開

特別養護老人ホーム 幸豊ハイツ総合施設長 大久保 幸積氏

・障害者グループホームの実践と今後の課題

知的障害者更生施設 手稲この実察 寮長 加藤 孝氏

・住宅街に展開する小規模施設サービスの実践と課題

NPO 法人「ホームヘルパーノア」 デイサービス「花梨の森」

事務局長 澤出 桃姫子氏

・グループホームの人間関係をどう設計するか～環境行動学の応用～

北海道情報大学 助教授 工学博士 隼田 尚彦氏

司 会 北海道地域福祉学会 理事 大内 高雄(北星学園大学教授)

4) 研究発表 ( 16:30 ~ 17:30 )

< 募集中 >

5) 閉会挨拶 ( 17:30 ~ 17:35 )

北海道地域福祉学会 副会長 白戸 一秀 (北海道社会福祉協議会事務局次長)

6) 北海道地域福祉学会総会 ( 17:35 ~ 18:00 )

7) 懇親会 ( 18:30 ~ 20:30 )

会場 つば八 大谷地店 (011) 801 - 1888

会費 2,500 円程度

## 6. 大会日程

12:00 12:50 13:00 14:00 16:30 17:30 17:35 18:00 20:30

受付	開会	基調講演	シンポジウム	研究発表	閉会	総会	移動	懇親会
----	----	------	--------	------	----	----	----	-----

## 7. 参加対象

- ・北海道地域福祉学会会員
- ・地域福祉に関心のある一般市民、学生

## 8. 参加費

当日受付にて申し受けます

会 員 500円

非会員 1,000円

学 生 500円

## 9. 研究発表募集要領

- 1) 研究発表は会員のみさせていただきます。
- 2) 発表時間は質問5分を含めて、1人20分~30分以内。
- 3) 発表を希望される会員は、別紙2に必要事項をご記入の上、6月27日(金)までに北海道地域福祉学会事務局まで提出してください。

## 10. 参加申込み

参加ご希望の方は「住所・氏名・所属・電話番号」等を別紙申込書に記載し、FAX・メール・郵送等でお申し込みください。

また懇親会に参加される方は同申込書にご記入ください。

## 11. 申込み先

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目道立社会福祉総合センター内  
北海道社会福祉協議会 総務部 企画情報課  
北海道地域福祉学会事務局 (担当: 名畑)  
TEL (011) 241 - 3976  
FAX (011) 271 - 1977  
E-mail tob01a01@wamnet.wam.go.jp

## 第1回定例研究会開催!!

2003年5月26日月曜日、午後6時30分よりかでの2.7において、第一回定例研究会が開催されました。テーマは「特別養護老人ホームの挑戦! ~小規模多機能型・地域ケアの実践~」で講師は、美瑛慈光園施設長の安部信一氏。

安部氏は、グループホーム虹の実践についてビデオを交えながら話され、高齢者が在宅で暮らせる可能性を広げることが目的に、デイサービスやショートステイを支え、なるべく在宅生活・地域生活を支えることが大切で、それでも生活できないという人がグループホームへという捉え方で支援していると話されました。

## 地域福祉研究所セミナーのお知らせ

特定非営利活動法人日本地域福祉研究所では第9回地域福祉実践研究セミナーを下記の日程・内容で開催することとなりました。

第9回目の開催地が釧路市であることもあり、北海道地域福祉学会では、このセミナーに共催することとなりました。

詳しい案内につきましては次回ニュースでお知らせしますので、ぜひご参加ください。

### 第9回地域福祉実践研究セミナー

テーマ「介護保険、支援費下におけるコミュニティソーシャルワークの展開」

とき 2003年9月4日(木)~6日(土)

ところ 釧路市 生涯学習センターまなぼつと釧路キャッスルホテル(交流会)

内容 1日目はシンポジウム・鼎談・懇親交流会、2日目は9時~21時までワークショップ、3日目に個別コンサルテーション・総括コンサルテーションがあります。

参加費 宿泊参加を原則とし、資料代2,500円、食事代(2日目昼と夜)3,000円を含み25,500円。懇親・交流会費は6,000円

募集定員 150名

参加申込 日本地域福祉研究所事務局  
(担当 長谷川・鈴木・三澤)

〒160-0003 東京都新宿区本塩町21番地  
七瀬ビル7階

TEL 03-3355-2473

Email Jicw@nifty.com

## 日本地域福祉学会第17回大会報告

2003年6月6日(金)、7日(土)に日本地域福祉学会第17回大会が、高知県の高知市文化プラザ「かるぼーと」(1日目)と高知女子大学池キャンパス(2日目)で開催されました。第17回を迎える今回の大会テーマは、『地方からの発信~地域福祉とまちづくり』で約700名の参加があり、大会は盛会に終了しました。

以下、事務局の参加報告です。

### 1日目

開会式の後、地域福祉計画シンポジウムと会員20人による自由研究発表が同時進行で行われました。

昼食後パネルディスカッションと自由研究発表が同時進行され、その後、高知企画、総会、懇親会という内容でした。

### ・地域福祉シンポジウム

「住民参加の地域福祉計画づくり」をテーマにした地域福祉計画シンポジウムが開催されました。昭和女子大学永山誠氏の進行の元、厚生労働省社会・援護局地域福祉課の佐藤信人氏、関西学院大学の牧里每治氏、全国社会福祉協議会の和田敏明氏の3名が地域福祉の概念をどう捉えているか、計画づくりにおける住民参加の状況についてどう思うかなどを中心に話されていました。

地域福祉の概念をどう捉えているかという問いについて牧里氏は、社会福祉法の成立で地域福祉は180度変わった。それは利用者主体から地域福祉を築いていくというところである、住民主体という言葉は岡村先生の理論で出されていたが、それが継承され、社会福祉法で具現化されてきている。一人の人間から見てサービス、地域福祉は何なのかという視点ではまた地域福祉の概念は変わってくる。と話されていました。

また、計画づくりにおける住民参加についてどう思うかという問いに佐藤氏は、どのようにするかというプロセスが大事であり、一年ですぐ出来るものではない。住民との座談会を積み重ねてつくり上げるべきであり、ハーモナイゼーションの原則(次ページ参照)に基づいたものであるべきだと述べられました。

ハーモナイゼーション（地域福祉推進）の6原則  
（互いをよく知り、違いを認め尊重し、互いに影響し合  
いながら調和して共に生きる）

- 1 個人の自律の原則
- 2 信頼・共生の原則
- 3 福祉の主権在民の原則
- 4 公私協働の原則
- 5 双方向サービスの原則
- 6 パートナーシップ、チームアプローチの原則

質疑応答では、徳島ソーシャルワーカー協会の方が推進計画について、社協と行政が協働で行っている一方で、行政が計画をつくり、社協がそれに乗っかっているところがある気がするが、どうかと質問され、その問いに和田氏は、実践計画はもともと社協がつくったもので、行政は行政計画としてつくっていかなければならない。その町の福祉を計画的にどう進めるかを考え、評価にとどまらず、公民のパートナーシップによる計画が必要。市町村合併が問題になっているが、合併してからつくるのではなく、合併が意味あるものにするために計画を先行してつくっていくことも必要だと答えられました。

#### ・パネルディスカッション

日本地域福祉学会会長及び日本社会福祉事業大学の橋本謙策氏進行の元、「福祉のまちづくりと住民参加」をテーマにパネルディスカッションが行われました。パネリストには高知県知事の橋本大二郎氏、NPO法人地域サポートの会さわやか高知の片岡朝美氏、宅老所たんぽぽ大津の福富宣子氏、土佐町社会福祉協議会の山首尚子氏を迎え、実践報告を交えて下記のような議論されていました。

片岡氏：NPO 法人地域サポートの会さわやか高知は5名の女性から立ち上げた草の根の活動。現在会員500名でそのうちサービス利用者が230名、ボランティアが220名、間接的な応援をする賛助会員のような方50名で運営している。活動内容は様々で、保育園などの送り迎えや授乳中の母親のいる家庭で家事手伝いなどの子育て支援から障害者の移送サ

ービス、ひとり暮らしの高齢者の支援等依頼があれば何でも行っている。

福留氏：宅老所たんぽぽ大津は、大津に住む人を対象に平成12年から行っている。平成10年にあった高知の集中豪雨の支援から始まり、交通安全協会、民協、自然を守る会等38団体に声をかけてボランティアも大津在中で行ってきた。小中学校生をはじめ消防署、駐在さんが目を配って何かと支援してくれる。生きがいづくりを中心に生涯学習なども行っている。また、高齢者は支援されるだけでなく、高知の国体の時には選手にお土産として人形を作ったり、交通安全のお守りをつくり交通安全協会へ買い上げてもらったり、小中学校へ手縫いの雑巾を寄贈したりと相互ボランティアが成り立っている。

橋本氏：3名の話聞いて、地域にとっても深い愛情を持っていることが伝わってきた。平成10年の集中豪雨は本当にひどい雨だったか、死者がゼロだった。それは、消防を含めて地域の方がひとり暮らしの方等地域のニーズを把握していたため被害が少なかったと思う。行政は縦割りだといわれるが、高知の地域住民はその壁を超えている。地域にあるものをうまく支援していくのが行政の役割だと思う。

大橋氏：福祉のまちづくりと住民参加がテーマであるが、住民参加でつくる地域福祉とはどのように思うか。

山首氏：住民参加という意味がよく理解されない。ボランティアでさえ、「ボランティア」という言葉にしてしまうと住民の受入が厳しかった。みんなで協力して支え、支えられて一緒にやってきたことが今はボランティアと言うんだよと説明してやっと理解されている。自分の問題を解決していくということが住民参加につながっているように思う。

大橋氏：どちらかというと高知では住民参加は住民自治になっている。

橋本氏：官民公（パブリック）というが、話を聞いて民のパブリックサービスが成り立っているように思える。今後NPOの活動やコミュニティサービスの核を活かし、行政に代わる公をつくることを望む。

#### ・高知企画

15時20分より、高知女子大学玉里恵美子氏進行の元、高知新聞社松岡和也氏より講演がありました。

松岡氏は、高知よさこい祭りについて、以下のようには話されました。

高知のよさこいは今年50回を迎える。開催は8月で157チームが参加する大きな祭りとなっている。もともとは徳島県の阿波踊りに負けないまちづくりを活性化させるお祭りとして始まり、オリジナリティーを出して鳴子を鳴らして踊る。鳴子はもともと田んぼにすずめよけに使われているものであった。

よさこいといえば、今では北海道が有名で、源流が高知であるということがあまり知られていない。だが、現在、よさこいが行われていない県は山梨・鹿児島・徳島の三県のみである。

日本の祭りは伝統的で排他的なお祭りが多いが、よさこいは異質で、決まりといえば、鳴子を鳴らすこと、よさこいの一節をいれることだけでそれ以外は自由であるため、いろいろな層に受け入れられている。

また講演後、高知のよさこいチーム4団体による踊りが披露された。

## 2日目

自由研究発表が9時～12時、13時～16時まで行われる中、10時からNPO企画、参加型討論会が行われ、13時から市町村企画のシンポジウム、特別部会が行われました。

#### ・自由研究発表

以下の9つの内容で行われ、2日目の発表は75人、両日合わせて95人の口頭発表と3つのポスター研究発表が行われました。

（下線部は1日目に行われたものです）

第1分科会（1 - 1 - 1 - ）  
ボランティア活動・福祉NPO・福祉文化

第2分科会 在宅福祉サービス

第3分科会 福祉教育

第4分科会（4 - 4 - 4 - ）  
地域ケアシステムとソーシャルワーク

第5分科会（5 - 5 - ）  
地域福祉計画

第6分科会 介護保険制度・支援費制度

第7分科会（7 - 7 - 7 - ）  
地域福祉の自立生活支援

第8分科会（8 - 8 - ）  
地域福祉理論・方法論

第9分科会 歴史・国際比較研究

また、今回、北海道から発表されたのは2名でした。北海学園大学の横山純一氏が第5分科会で、テーマは「医療と介護の広域連合である隠岐広域連合の現状と課題」、北海道浅井学園大学の守村洋氏が第7分科会で、テーマが「精神障害者の地域活動 - さっぽろ・こころの健康まつり「朗読劇」を通じての啓発活動 - 」でした。

#### ・NPO企画

高知県ボランティア・NPOセンターの半田雅典氏進行の元、「NPOと社協の協働のカタチを探る」というテーマでシンポジウムが企画され、松山市社会福祉協議会ボランティアセンターの白方雅博氏とNPO法人さわやか徳島の麻野信子氏が実践報告を行いました。

#### ・参加型討論会

ゲストに厚生労働省社会・援護局地域福祉課の佐藤信人氏を迎え「地域福祉計画（ガイドライン）をどう読むか」をテーマに昭和女子大学永山誠氏の進行の元、参加型討論会が行われました。

#### ・シンポジウム（市町村企画）

高知大学の田中きよむ氏進行の元、シンポジウムに香川県さぬき市長寿障害福祉課吉原正和氏、島根県瑞穂町長の澤田隆之氏、長野県松本

市福祉計画課の懸治男氏、高知県大豊町健康福祉課の小笠原征太郎氏を迎え、「市町村再編と地域福祉」というテーマでシンポジウムが行われました。

#### ・特別部会

特別部会に2003ニッセイ財団高齢者社会福祉・実践的研究助成の成果発表が日本生命財団中西茂氏進行の元、開催されました。東京都社会福祉総合学院三浦文夫氏が「地域福祉と実践的研究の必要性」について話された後、平成14年度(第1部)、15年度(第2部)の発表となり、平成14年度は、ルーテル学院大学の市川一宏氏が「第三の分権化と福祉コミュニティの形成に関する研究 - 新しい公共の形成への展望と課題 - 」を、埼玉大学の小笠原浩一氏が「事業コンソーシアム(協働)方式による統合された地域総合生活支援機能の構築に関する研究」の発表をされ、その後北星学園大学で北海道地域福祉学会会長である杉岡直人氏が栗山町のくりやまエコマネー研究会代表長谷川誓一氏と共に「エコマネーの地域導入(栗山町)における実践と効果測定」について発表されました。

平成15年度は、京都光華女子大学の小國英夫氏が「住民の日常的ネットワークと地域福祉実践」の力動性に関する研究 - 京都市右京区における小地域活動拠点の意義と効果を中心に - 上智大学の冷水豊氏が「高齢者に対する地域住民による新たなインフォーマルケアと介護保険等によるフォーマルケアとの望ましい組み合わせ地域モデルの設計(農村地域の場合) - 家族事例調査による研究対象地域での高齢者ケアの実状分析を中心として - 」調布ゆうあい福祉公社の土屋典子氏が「生活時間様式におけるケアアセスメントとモニタリング技法の開発」のテーマで発表が行なわれました。

### 日本地域福祉学会第18回大会予定

日本地域福祉学会第18回大会について、2004年の開催会場が愛知県・日本福祉大学で開催することが正式に決定しました。

とき 2004年6月

ところ 愛知県・日本福祉大学

内容など具体的に決まり次第ニュースなどを通じてお知らせしたいと思います。

また、2005年の19回大会については大会前日の理事会にて北海道・北星学園大学で開催することが提案され、現在、調整が進められています。

### 北海道社会学会大会のお知らせ

第51回北海道社会学会の大会が下記の日程・内容で行われます。

とき 6月21日(土)・22日(日)

ところ 北星学園大学A館

参加費 2,000円

申込み等お問合せは社会学会事務局まで

〒006-0062 札幌市中央区南2条西10丁目  
クワガタビル2階

北海道NPOサポートセンター内

FAX 011-261-6524

E-mail socio@npo-hokkaido.org

【6月21日(土)】

9:15~ 受付開始

9:50~ 開催校挨拶

10:00~ <高齢化研究セッション>

司会 片桐 資津子(鹿児島大学)

1 高齢者の在宅生活が継続困難となる要因の分析 野坂 きみ子(北海道大学大学院)

2 過疎地域における生涯学習の展開とまちづくり 大野 剛士(北海道大学大学院)

3 夫婦関係満足度評価における夫婦間乖離と夫婦のコミュニケーション 土倉 玲子(北海道文教大学)

4 高齢者の依存意識構造とその規定要因 王 海燕(北海道大学大学院)

12:00~ 昼休み

13:30~ シンポジウム

司会 宮内 泰介(北海道大学大学院)

テーマ「社会学を教えるということ」

コメンター 樽本 英樹(北海道大学大学院)

・教養社会学の教育内容 平沢 和司(北海道大学医療技術短期大学部)

・「社会学」を学ぶ者と教える者のズレ 野澤 肇（東京理科大学長万部校舎）

・社会認識と社会参加への導入教育 大國 充彦（札幌学院大学）

16:30～ 総会

18:30～ 懇親会 会費 4,000（学生 3,000）円

## 【6月22日（日）】

9:30～ 受付

10:00～ <現代社会のトピックス>セッション  
司会 村上 文司（釧路公立大学）

1 難民問題とは何か - 近年の研究動向に着目して -

人見 康弘（北海道大学大学院）

2 病院ボランティア行為の分析

竹中 健（北海道大学大学院）

3 創価学会における信仰継承

猪瀬 優理（北海道大学大学院）

4 モノグラフと理論の関係に関する諸問題 - 布施鉄治における『調査と社会理論』を事例にして -

井腰 圭介（帝京科学大学）

10:00～ <成熟社会における生活意識研究>  
セッション

司会 櫻井 義秀（北海道大学大学院）

「成熟社会における生活意識に関する研究 - 札幌市清田区清田地区住民意識調査報告 - 」

1 研究目的と調査概要

飯田俊郎（札幌国際大学）

2 大都市郊外の高齢者の生活と健康

金谷有子（札幌国際大学）

3 中高齢者の居住状況と生活満足度

長谷部牧子（札幌国際大学）

4 札幌市の雪対策と郊外住民の暮らし

飯田俊郎（札幌国際大学）

5 身体的・精神的健康度とその関連要因

林 美枝子（札幌国際大学）

## 事務局よりお知らせ

### 住所変更について

会員の方で、所属先や自宅の住所・電話番号の変更や学会ニュースなどの送付先に変更がありましたら、ご面倒でも事務局までご連絡ください。またお知り合いの方で入会希望の方がおりましたら、随時受付けておりますので、お知らせください。

### 会費請求について

2003年度の学会費につきましては追ってご請求させていただきます。過年度分の会費（年間5,000円）をお納めになっていない方につきましては、下記の振込先にお早めにお納め下さい。

#### 【振込先】

・郵便振替口座

02700-0-14963

（加入者）北海道地域福祉学会

・北海道銀行 道庁支店

（普通）0582633

（口座名義）北海道地域福祉学会

### 掲載記事について

学会ニュースに掲載する記事を随時募集しています。また、会員の方で図書・報告書などまとめられた方がおりましたら、ニュースにも掲載したいと思いますので、お知らせください。その他、北海道地域福祉学会活動についてご意見、定例研究会のテーマ・報告者等ご希望がありましたらお聞かせください。

## ～北海道地域福祉学会事務局～

社会福祉法人 北海道社会福祉協議会  
総務部 企画情報課（担当：名畑）

〒060 0002

北海道札幌市中央区北2条西7丁目  
道立社会福祉総合センター内

tel (011)241 3976

fax (011)271-1977

E-mail tob01a01@wamnet.wam.go.jp